

(議長)

休憩を閉じ、再開致します。
次に、飯田議員の発言を許可致します。

「飯田議員」

議長。

(議長)

飯田議員。

「飯田議員」

えーそれでは、えー私の方から、あー2項目につきまして、一般質問を致します。
まずはじめは、あー照井町長の4選出馬についてでございます。

さて、えー町政執行方針が先ほど示されまして、令和8年度予算総額は、対前年度比15.9%増の102億数千万円の大規模予算となったところであります。

特に、えー令和8年度は、重要政策も山積し、町の将来を左右するような、大変重要な、あ一年であります。照井町長におきましては、早急にこの4選出馬について、態度表明すべきというふうに考えますが、所信を伺いたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

飯田議員の1問目、私の4選出馬に関するご質問にお答え致します。

これまでの11年と7ヶ月の間、町政執行方針で申し上げました、現世を忘れぬ久遠の理想に向かって、全身全霊で町政運営に当たって参りました。

議員ご指摘の通り、今年度、新年度、令和8年度の予算案は、新・道の駅の建設事業費を盛り込んでおり、規模の大きな予算となっております。

まずは、この令和8年度各会計予算を議員の皆様にご議論頂き、そして可決をして頂いたのち、その予算案を慎重かつ着実に執行して行く事が必要だと考えています。

私の4選出馬に関しましては、その上で、熟慮の上、然るべき時期に判断して参りたいと考えております。

「飯田議員」

議長。

(議長)

飯田議員。

「飯田議員」

えーそれでは、あー再質問させていただきます。ま、何となく政治家的な、ただ今、答弁でございました。

しかし、私の質問にはお答え頂いていないというふうに考えました。えー過去を振り返ってもですね、これまで2選目、3選目につきましても、それぞれ議員の方から出馬を要請する一般質問が出されたところでもあります。その3月定例会において、それぞれ出馬の表明をした経過がございます。

私はそういうような経過を考えましてですね、特にこの令和8年度は、先ほど申し上げました、何と言っても過去最大の骨格予算と言えども、財出の規模であります。

その大きな底上げとなっているのが、町長の提案、最初からこう提案されました、北の江の島構想の道の駅事業費が、14億7千万かさ上げをしている訳であります。

こういう大きな事業を抱えたならば、やはり早期、早急に態度を表明して、この重要案件に取り組むべきだというふうに考えております。何よりもですね、やはりこれから人事も始まります。それらを踏まえたらですね、やっぱり一刻の猶予も許されない訳であります。

ここで改めて、その4選についての意思をもう一度確認させて頂ければという思っております。よろしく申し上げます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

飯田議員の再質問にお答えをさせていただきます。

繰り返しの答弁で申し訳ございませんけれども、おー今の私の、おー答弁出来る内容と致しましては、熟慮の上、然るべき時期に判断をして参りたいと考えております。

まずは、こののち、議論を頂く各会計予算、特に道の駅事業を含んだ一般会計予算をしっかりと皆様にご議論頂いたのちに、可決して頂いて、その予算案を着実に、そして慎重に執行して参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思っております。

「飯田議員」

議長。

(議長)

飯田議員。

「飯田議員」

えーそれでは、然るべき時期にきちっと態度を表明することを期待を申し上げまして、えー2問目に入りたいと思います。

えー次は、あー照井町長の政治姿勢についてであります。

町政運営に当たりましては、町民に寄り添い、そして、町の皆さんの声を広く聞く、そういうような誠実性が求められる訳であります。

例えば、町民懇談会や町民との対話集会等を開催しながら、広く町の皆さんの意見を聞く、そういうような、あー考えが求められます。ま、町長の所信を伺いたいと思います。

次、2問目でございます。えー北海道の機関であります、例えば、道立江差病院、江差高等看護学院、また江差高校等につきましては、大変、生徒数も、入学希望者も減少しておりますし、利用する方々も減少傾向にあるというふうに考えております。

これはやはり何といたっても、所在地の町長として、南檜山にとりましては欠くことが出来ない施設、機関であります。照井町長がリーダーシップをとりましてですね、近隣町の首長さんや、また、学校問題であれば教育長だと思えますけれども、是非ですね、連携をしながら、持続可能な施設とすべく活動をすべきと考えますが、町長の所信を求めたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

飯田議員の2問目、私の政治姿勢についてのご質問にお答え致します。

1点目、町政運営に当たって、町民に寄り添い広く町民の声を聞くため、町民懇談会や対話集会などを開催すべきとのご質問でございます。

これまでも住民の皆様との対話というのを大事にしなければならないとの考え方から、まちづくり懇話会などを開催し、テーマを設けながら住民の皆様からご意見を聞く機会を設けてきたところでございます。

今年度につきましては、まちづくり懇話会の開催は出来ておりませんが、4月中に

は新しい道の駅をテーマに、道の駅を運営する事業者グループが、町民の皆様を実施設計、運営計画について説明し、意見交換を行う機会を設ける予定で取り進めているところであります。

一方で、様々な案件がある中で、住民の皆様と直接議論が出来ない場面もございます。そのために、まさに地方自治における議会制民主主義があるものと理解しております。

従いまして、第一義的には議会の場において、議員の皆様との真摯な議論を通じて、町としての意思を形成して行く事が重要であると考えますが、町民の皆様への説明、意見交換が必要という場合があるとすれば、住民の皆様のご意見を伺う機会についても積極的に設けて行きたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

2点目、江差高校、江差高等看護学院、江差、道立江差病院等の道立機関の維持・存続に向けた近隣町との連携、所在地としてのリーダーシップについてのご質問にお答え致します。

これまで江差町と致しましては、江差高校につきましては、南ひやま学の取り組みなどへの協力で連携を図って来たほか、令和8年度予算案には、えー江差高、江差高校サテライン講習支援に係る経費を計上しているところでございます。

また、江差高等看護学院と江差病院につきましては、看護師養成修学資金や道立江差病院医師研究資金の貸付制度の創設により人材の確保への支援を行って来たほか、南檜山5町の自治体及び医療機関が連携し、南檜山メディカルネットワークを結成し、地域医療の確保に取り組んできたところでございます。

いずれの機関につきましても、人口減少、入学者、利用者の減少などにより極めて厳しい状況にありますが、地域にとって重要な機関であり、維持・存続に向けて近隣町とも連携を図りながら対応して参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「飯田議員」

議長。

(議長)

飯田議員。

「飯田議員」

えーそれでは、あー再質問を致します。

ただ今、あー町民との対話でございますが、確かにこれまで町長の姿勢は、町の皆さんと対話をしたと言う事は認識をしております。

例えば町内会、色々な団体が町内にはございます。経済団体、どちらかと言うと、そういう場においては、町内会の役員さんでありますとか、商工会ですとかそういう経済団体、役員の方々と懇談する機会は大変多かったと思いますが、例えば、それ以

外の町民の方々、特にですね、子育て世代の若い方々との、私はあの懇談の場が少ないような感じがします。

是非ですね、そういう方々を含めた、これから開かれるという町長が政務、あの一決意をされましたんで、そういう方々が出るような機会を作るべき、そういう懇談会をすべきというふうに考えますが、改めて答弁をお願いしたいと思います。

それで、もう一つ、あの一道立の関係の機関でありますけれども、例えば高校の問題であれば、現在議会の社会文教常任委員会におきまして、江差高校と交流重ねながら問題の整理をされているというふうに聞いております。やがては、意見という形で町の方に提案されると思いますが、例えば高校の問題一つにとりましてもですね、やはり一番大きいのはやっぱり、管内の人口減少が大きいと思いますけれども、何といたっても、やっぱりそれぞれ各自治体において、自分の、例えば上ノ国の例を取りますと、自分の町の高校を維持するために、長所をつぎ込みながら、色々な方策をしている、そういう事例もございます。

例えば、近くであれば上ノ国高、あの一、奥尻高校、知内高校もそうです。それとただ今、町長答弁頂きましたように、確かに看護師の確保対策補助金を出しておりますし、医師の確保対策と言う事で、貸付金も、ま、結果的に補助になりますけれども、ただこれを何年も繰り返しておりますけれども、依然として利用者、入学者が減っていると言う事は、やっぱりこの効果があまり出て来ていないんじゃないかなという考えざるを得ないと思うんです。

やっぱり、より実効性のある対策を打っていかなければ、ま、この日のあの一期間は道の方が赤字を理由に、例えば縮小、閉鎖と言う事で、初めて自治体が動く、そういう事例が多い訳ですから、そうでなくて、現状をきちんと認識の中で、早めに各自治体と連携をとりながら、実効性のある対策を望むべきと考えますが、再答弁をお願いしたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

今、大きく3点についてのご質問頂いたかなというふうに思います。えー高校の件に関しましては、教育委員会から答えをさせて頂ければなあと思います。

えーまず子育て世代との意見交換と言う事ですけども、ご指摘の通り、やはりですね、子育て環境がどうあるべきかといった時に、ま、色々子供・子育て計画などでですね、アンケート調査を見てですね、何が足りていないのかとか、どう言う事を施策に盛り込むべきかというのは検討しているところでございますが、あーご指摘のそ

の直接そういう世代の声を聞く機会というのが、おっしゃる通り、まあ私に不足している部分かなというふうに思い、思いますので、何らかの機会を考えながら、今後、検討して参りたいなというふうに思っております。

もう一点、高看のお話ですけれども、この間、特に江差高等看護学院はパワハラ問題が起きてですね、非常にですね、なんていうか社会的な注目というか、あ一中ですね、我々も地域も、やはり高看と一緒に地域の中で必要な、あ一教育機関と言う事ですね、連携を図って行かなければならないなというふうに感じているところでございます。

この間、その問題が起きてからは、なるべく入学式卒業式に私は、あ一列席をしておりますね、入学者あるいは卒業生の皆さんにお言葉を述べさせて頂くという機会を与えて頂いております。

また、オープンキャンパスという形でですね、学校を開放して、え一地域の皆さん、特にですね、え一食堂をや、地域食堂をやっている皆さんのご協力を頂きながら、あ一地域の皆さんも入っていった中で、え一学校の魅力というのを、あ一今後入学を考えていく学生であったり、入学希望者に対してPRするという機会を持っています。

そういった中で感じているのは、オープンキャンパスなどを見てもですね、そのオープンキャンパスに会場して、え一入学したいと言う事で入学している、う一高校生の姿も私は拝見をしています。そして、そういった方が一生懸命、こう学院で生活をして、そして卒業を迎えると言う事を目の当たりにするとですね、本当に、え一地域としては、それが看護師という専門職、地域にとって必要な専門職というところが非常にですね、え一大事な大事な機関だなと言う事を改めて認識しているところでございます。

え一しっかりとですね、え一何が足りないのかと言う事を今一度考えるべきだと言う事を、え一何が支援で足りないのかというところですね、え一我々、え一所在地の江差町としても連携出来るところは最大限連携しながら、あ一地域医療を地域の福祉に寄与するような、あ一そういう機関となるようにですね、え一支援を継続して参りたいと考えておりますので、ご理解頂きたいと思っております。

「教育長」

教育長。

(議長)

教育長。

「教育長」

江差高校に関するご質問にお答えさせていただきます。

え一報道されておりますように、来年度の高校、江差高校への入学につきましては、従来の二間口を割り込むと言う事が想定されております。

一昨年までは、管内、この近隣町の、お一中学校卒業する生徒の、ほぼ5割程度が江差高校を希望頂いていたと。それが今年度、7年度になりますと4割程度、8年度に関しては3割程度まで落ち込んでいると。この結果、二間口維持出来ていたものが、今、一間口という状況になっているかなというふうに認識しております。

やはり、まずは、子供たちが中学校卒、卒業する子供たちが江差高校に魅力を感じる。江差高校に進学をして、その先の進路を実現するという、そこの思いをですね、きちんと持てるような学校でなければならないのかなというふうに認識しております。

私ども町として、これまで江差高校との協議を都度行っておりますけども、江差高校としても、学校の魅力化、特色化に関しての色々な考えを持ってございます。その考えに対して、私ども江差町として、どの程度のご協力出来るのか、どういう形で町が関、関与して行くのかと言う事については、今後、お一関係、町とも含めながら検討させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(議長)

以上で飯田議員の一般質問を終わります。